

肺がん

プロフィール

金田重行さん(仮名)

● 33歳 ● 未婚
● 契約社員／現在の年収約300万円



家族構成

ひとり暮らし

罹患の経緯と
現在の治療状況等

約3年前に肺がん告知を受ける。病期はⅢB期。手術ができない状態と診断され、薬物療法を継続して行っていた。1年前から治験に切り替えている。

民間保険の加入状況

民間保険にはまったく加入していない。

罹患後の
生活・就業の変化

正社員で働いていたが、罹患後しばらくして退職。現在は以前勤務していた企業で契約社員として勤務。治療によってめまいやむくみなどの副作用はあるものの、日常生活やデスクワークはある程度普通に行える。

支出について

1年目

1

勤務先の人間ドックで異常が見つかり、紹介されたA大学病院を受診して精密検査を受ける。非小細胞がん(腺がん)ⅢB期と診断を受ける。

●精密検査(喀痰細胞診、気管支鏡検査、胸部CT検査、胸部MRI検査など)

●医療費総額……約34万3,000円〈自己負担3割: **約10万3,000円**〉

※2ヵ月に渡ったため高額療養費の適用なし

2

入院して放射線治療と薬物療法を行い、その後、さらに薬物療法を1週間程度入院しながら繰り返し行う。

●入院費用(放射線療法+薬物療法)(20日間)

●医療費総額……約92万円〈自己負担3割: 約27万6,000円〉

●高額療養費適用後の自己負担…… **約8万7,000円***

●薬物療法(抗がん剤治療)(3ヵ月間)

●医療費総額……約68万円〈自己負担3割: **約20万4,000円**〉

2～3年目

3 骨への転移が広がり、薬物療法（分子標的薬）を提案される。治療法を検討するため、別のB病院のセカンドオピニオンを受けるが、提示された治療法はA大学病院と同じで、提案された薬物療法を開始する。

●セカンドオピニオン受診

●医療費総額…… **約3万5,000円** 〈全額自己負担〉

●診療情報提供書・検査資料提供料

●医療費総額……約6,000円 〈自己負担3割：**約2,000円**〉

●入院費用（分子標的薬の副作用を緩和するため入院して治療）（10日間）

●医療費総額……約95万7,000円 〈自己負担3割：約28万7,000円〉

●高額療養費適用後の自己負担…… **約8万7,000円※**

4 退院後、定期的に通院し、薬物療法を行う。

●薬物療法（1ヵ月に1回）（22ヵ月間）

●医療費総額……約20万円×22回＝約440万円
〈自己負担3割：約6万円×22回＝ **約132万円**〉

5 薬物療法の耐性ができ、効果があまり得られなくなってきたため、主治医の勧めで治験（P69参照）に参加する（現在も継続中）。あわせて毎月、定期検査も行う。

●入院および治療……治験のため入院費および薬剤費は **無料**

●定期検査（血液検査、胸部X線検査、CT検査など）

●医療費総額……2年間で約40万4,000円 〈自己負担3割：**約12万1,000円**〉

●通院のための交通費…… **約11万円** 〈実費負担〉

罹患後約3年間の自己負担額合計 **約206万9,000円**

※高額療養費適用後の自己負担額（年収約370万～約770万円の場合）P25参照

赤囲み・赤字の部分の合計

収入について

罹患前はIT企業の正社員として勤務していたが、罹患後に治療と仕事の両立ができず、退職した。その後、同社に契約社員として勤務している。現在は、在宅勤務に切り替えてもらっているが、出来高制のため、体調がすぐれないときには、収入が減ってしまう。

今は治験に参加しているため、医療費負担はほとんどないものの、収入が少なく生活費を捻出することが難しい。そのため、両親が保有する賃貸マンションの一室に引っ越しをして、生活費等の一部を援助してもらっている。民間保険にはまったく加入しておらず、入院給付金や手術給付金の給付はなし。

罹患前の収入

年収約**420万円**

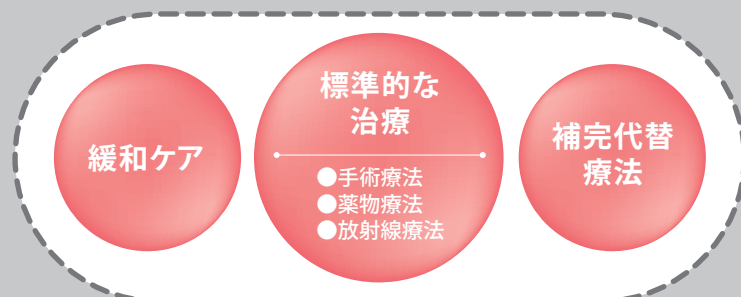
罹患後

年収約**300万円**

「集学的治療」の必要性

おもながんの治療法である手術療法、放射線療法、薬物療法などを単独で行うのではなく、がんの種類や進行度に応じて、さまざまな治療法を組み合わせた治療を行うことを「集学的治療」といいます。各分野の専門医や看護師、技師等がチームを組み、さまざまな治療技術を戦略的に組み合わせた治療を行うことが治療効果の向上には必須となります。

◆ 治療法を組み合わせる集学的治療



Patient's Voice

まさか自分が肺がんと診断されるなんて思いもよりませんでした。がんは高齢者の病気だと思っていましたし、たばこも吸いません。進行した状態で見つかりましたが、治療法の進歩によって、なんとか生活できているのはありがたいと思っています。

現在は治験に参加していますから、医療費負担はほとんどありません。でも今後、治療がずっと続くとなると、以前と同じような収入は見込めないでしょう。契約社員ですし、これから将来のことを考えるととても不安です。ただ先のことばかり考えていても仕方ないので、今はできることを精一杯がんばるつもりです。

周囲のがん患者さんに話を聞くと、がん保険や医療保険で経済的に助かっているとおっしゃいます。民間保険にはまったく加入していなかったのが、今からでも加入できれば良いのですが、保険料も安くないでしょうし……まだ若いし、独身なので、保険なんて必要ないと思い込んでいました。がんが見つかる前に加入しておけば良かったと本当に後悔しています。

One Point

治験ってどんなもの？

新しい薬や治療法を開発するためには、国が定めたルールに基づいて、有効性や安全性を評価する必要があります。人間を対象に、本当に効くか、安全に使えるのかを科学的に調べて確認する方法が「臨床試験」です。このうち、製薬会社や医師がお金を負担して、厚生労働省に新薬の承認を得るために行う臨床試験のことを「治験」といいます。

治験に参加することで、整った環境で、新薬や新しい治療法を受けられる、医療費負担が軽減できるなどのメリットがある一方で、副作用や安全性のリスクや自分にその治療法が有効とは限らないなどのデメリットもあります。ただ、実際のがん患者さんのお話を伺うと、治験に参加されている方は少なくありません。治験に関する情報は、主治医や担当医師に直接問い合わせたり、院内掲示、広報、インターネットなどで収集できます。

